



## 予報と予測

(6月のごあいさつ)

平成22年6月1日(火)

最近の天気は全く予想がつかえません。天気予報を信じて思わぬ失敗することも多々あります。

ところで、私の携帯電話の天気予報は、ほとんど外れたことがない。というのは予報の範囲が、今日(当日)の予報だけだからである。

携帯の表示が、例えば晴(太陽)と雨(雲と水滴)の絵が左右に出て、その大きさが若干違って可能性を表わしているようだ。

だから携帯を見て、今は晴だ、と見ると空にも太陽が照っている。今の状況だから100%当たっている。そして夕方は雨の表示となっている。やや小さなマークなので、夕方遅くに雨、有かと思う。そして、夜などに雨が降ると、当たると感心する。あまり外れることはない。だから的中率は90%位になっている。

それに比較して、経済予測というものの的中率は、30%以下であるように感じる。なぜ経済予測が当たらないかという、先々の予想であることと、たぶん現状すら的確に把握していない予測者に原因があるのではなかろうか。現状の経済状況すら理解できていないレベルで将来のことを予測しても当る筈がない。それは将来に対する不安を持つ人や抛り所を持たない人々の需要に対する予測という名の無責任な言動にすぎないからだ。

これによく似た現象が当たらない天気予報と気象予報士ではなかろうか。せいぜい翌日のことは参考になるが、2~3日後のことになると余り信じない方がよい。経済予測と似ていて、予報と関係のない意見のようなことまで言うが、予報が外れても責任もとらないし、何か時間つぶしのようである。

結局、放送局のレベルダウンでしかない。天気予報は的中率が生命である。

沖縄の天気予報よりも米軍の天気予報の的中率が高いと言われ、特に台風の来襲日にはそのことが証明されているようだ。

やはり専門性のレベルの高さと情報の精度と必要性の強さによるものではないかと思う。

外国でもそうなのかもしれないが、日本人は天気を挨拶の初めに置いたり、天気を話題にすることが多い。だから余り当らなくともいいのかもしれないし、天気を変えることも出来ないから、単なる話題でいいのかもしれない。

しかし、商売人は天気を見て売上を心配し、その対策を取っているし、経済予測は企業経営に大きな影響を及ぼす。

やはり社会に公表するのであるから、単に的中率が低いではすまされない。